

秋田・大仙の「奥羽山荘」営業再開へ

新型コロナウイルスの感染拡大で5月末に閉館した秋田県大仙市のホテル「川口温泉奥羽山荘」が近く営業を再開することが決まった。リサイクル・食品製造などを手掛ける佐々木興業(大仙市)が運営を引き継ぐと8日発表した。市内の花火業者と組み、1カ月に3日間程度、宿泊客向けに花火を打ち上げる。特注の花火打ち上げも受け付ける。

奥羽山荘は劇団のわらび座(仙北市)が2008年に大仙市から無償で譲り受け運営してきた。コロナによる宿泊や宴会の激減に設備老朽化もあり閉館を決めた。佐々木興業はわらび座から6月13日付で建物を無償で譲り受けた。敷地を所有する大仙市も土地の無償貸与を7月7日に決めた。

大仙「奥羽山荘」新運営で再出発

佐々木興業に譲渡

5月末に閉館した大仙市太田町の川口温泉「奥羽山荘」が8日、営業を再開した。施設は株式会社わらび座(仙北市)が経営していたが、老朽化や新型コロナウイルスによる自粛の影響で事業継続を断念。施設を譲り受けた大仙市刈和野の佐々木興業が再開させた。

施設は1981年に県が真木真屋県立自然公園の拠点施設としてオープンさせ、旧太田町が運営管理。93年に第三セクターの運営となり、98年に施設が町に譲渡された。合併を経て2008年にわらび座が市か

ら建物の無償譲渡を受け、経営していた。

佐々木興業は6月、わらび座と建物の譲渡契約を締結。さらに7日の市議会、市が敷地を10年間

にわたり佐々木興業に無償貸与することが承認された。

佐々木興業は住宅設備管理や食品製造を手がける。同社の佐々木正光社長(70)は「奥羽山脈の大自然が残る景色を生かした事業を展開したいのと、地元の人々の声に押された」と説明。今後の施設運営については「地元の農園で採れる野菜を山荘で使い、地域住民の健康増進を図るとともに定住人口増加に取り組みたい」と話した。

(山谷勉)